

平成23年6月10日現在

機関番号：32606

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2010

課題番号：20520558

研究課題名(和文) アーカイブズ制度の比較史的研究 ―アジア地域を中心として―

研究課題名(英文)

A Comparative-historical Study on the Archival Institutions: Especially in Asia

研究代表者

高埜 利彦 (TAKANO TOSHIHIKO)

学習院大学・文学部・教授

研究者番号：90092254

研究成果の概要(和文)：中国・韓国・ベトナムのアーカイブズ制度について、相互交流を通して学んだほか、アメリカのアーカイブズ学研究・教育の特質を、テキサス大学教授を招聘して学び理解を深めた。また日本国内各地にあるアーカイブズ(文書館)の現状視察をするとともに、歴史的な史料保存機関として真宗高田派本山専修寺門跡(三重県津市)の所蔵史料調査を行い、日本のアーカイブズ制度の特徴を検討し、他国との比較を行う中でその特質を把握した。

研究成果の概要(英文)：Summary of research progress: our research group found the nature of the archival institutions of China, Korea, and Viet Nam through the research exchange programs, and also got a better understanding of the qualities of archival studies and education in the United States of America through some lectures given by a professor at University of Texas we invited, on the one hand. We, in parallel, made inspections of some archival institutions and repositories all over Japan, and especially analyzed and organized the archival records held by the TAKADA HONZAN SENJUJI TEMPLE in Tsu City of the Mie Prefecture which was also a historical archives institution, on the other. We thereby compared the properties and attributes of archival institutions in Japan with those of other countries and identified the qualities.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,700,000	510,000	2,210,000
2009年度	900,000	270,000	1,170,000
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・史学一般

キーワード：アーカイブズ・史料保存・記録管理・史料学

1. 研究開始当初の背景

アーカイブズ制度とは、国、地方自治体、企業、団体、個人等、人間社会のあらゆる活動を通じて生み出される記録物を社会の共同記憶として適切に保存し、新たな創造的活動のための資源として活用するためのシステムである。アーカイブズ制度は、人文科学・自然科学を問わず学術情報基盤として重要なだけでなく、21世紀の民主主義社会と情報社会を支える土台として不可欠なシステムである。しかしながら日本のアーカイブズ制度は世界各国と比して格段に遅れた状態にある。そこで本研究では、日本におけるアーカイブズ思想の欠如やアーカイブズ制度の立ち遅れの要因を科学的に究明することを目的とする。その上で、日本におけるアーカイブズ制度構築の方向性を示していきたい。そのため、アジア地域を中心に欧米なども視野に入れて、アーカイブズ制度についての比較史的考察を重点的に実施し、日本固有の要素を浮き彫りにすることを目指す。本研究の前提として、平成15～18年度に科学研究費補助金基盤研究(A)「歴史情報資源活用システムと国際的アーカイブズネットワークの基盤構築に向けての研究」(研究代表者高埜利彦)によって、幅広い多くの研究成果を上げることができた。この成果の内「アーカイブズ制度の比較的研究」という課題に焦点を絞って本研究に取り組み、いまだ揺籃期にある日本のアーカイブズ学研究的土台を固めることを目標に据えた。

2. 研究の目的

(1) 各国・各地域におけるアーカイブズ組織の特質の解明

各国・各地域は、それぞれの社会に適応した独自のアーカイブズ組織を持っており、その発展過程も多様である。社会との関係性を明らかにするためには、まずアーカイブズ組織の現代的特徴と発展過程を明らかにする必要がある。日本の場合、東アジアを中心とするアジア地域との歴史的社会的つながりが深いことから、研究対象地域は、①日本、東アジア地域を中心とし、必要に応じて②欧米その他の地域を研究対象とする。比較史的手法を重んじ、各地域の共通する特徴と固有の特徴を明確にしていく。

(2) 各国・各地域におけるアーカイブズ学研究とアーキビスト教育の特質の解明

アーカイブズ組織と制度を支える基盤は、学術研究と専門職(アーキビスト)の養成にある。アーカイブズ学教育はアーカイブズ社会

の維持・再生産に関わり、アーカイブズ学研究はアーカイブズ社会の発展に関わる。そのメカニズムを明らかにすることが第二の研究課題となる。

3. 研究の方法

(1) 日本：研究軸「アーカイブズ組織の特質の解明」

近世寺院アーカイブズ(三重県津市真宗高田派本山専修寺)の研究を重点的に進める。大量の原史料の目録化(データベース化)とマイクロフィルム写真撮影を、大学院生などを研究協力者として参加させた。また大学組織のアーカイブズに関する特質の解明のために、学習院大学を対象にして資料整理を行った。さらに岡山県・岐阜県・長野県などの地方自治体のアーカイブズ(文書館)の現地見学をおこない、課題の解明に取組んだ。

(2) 東アジア：研究軸「アーカイブズ学研究・教育の特質の解明」

中国人民大学・韓国明知大学・ベトナムハノイ大学との交流を通して、それぞれの国・地域におけるアーカイブズ学研究・教育の歴史的発展過程と現状について、相互に情報交換と資料収集を行った。

(3) 欧米：研究軸「アーカイブズ学研究・教育の特質の解明」

アメリカ・テキサス大学デイビッド・グレイシー教授を招聘して、アーカイブズ学教育に関する講演とシンポジウムや特別授業を行った。

4. 研究成果

①近世寺院アーカイブズ(三重県津市真宗高田派本山専修寺)に関して、3カ年にわたり所蔵史料の調査を行い、原資料の目録データベース化とマイクロフィルム写真撮影を進めることができた。専修寺宝物館収蔵庫に保管される既目録化史料の撮影は完了し、未整理史料の目録化と写真撮影に順次進み始めたが、その緒に就いたところに止まっている。今後さらに目録化と写真撮影の作業を継続していく必要がある。

以上の作業から、専修寺に保存される史料の多くは、門主の家に関する、朝廷と幕府との交渉文書が中心であると思われる。専修寺門跡は准門跡の寺格であるが、歴代世襲親王家から子弟を入寺させていることから宮門跡の寺格を求める動きを幕府と朝廷に働きかけていた。世襲親王家との繋がりを維持したり、朝廷を構成する他の公家たちとも交渉す

るほか、他方でたえず幕府寺社奉行や老中・大奥などと交渉を欠かさなかったのである。それらの交渉記録（書状など）が膨大に保存されているのが確認された。

しかしながら教団組織・経営に関する史料は乏しく、それらは恐らく門主に準ずる院家や坊官（明日香家）に伝えられているものと想像される。津市一身田寺内町に屋敷が残る明日香家に調査に入れない状態が続いているのは残念であると言うほかない。以上の専修寺の史料調査を通して、史料の伝来が組織の機能と密接に関わりながらなされていることが確認できた。

②私立学校法人のアーカイブズ（学習院）に関して、学校法人内の各部局に保存されてきた半現用・非現用文書の所在調査を実施した。本研究期間中に学習院アーカイブズ設立準備室が開設され、平成23年4月から学習院アーカイブズの開設につながった。準備室段階では、学習院大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻所属の大学院生に目録取りの実習を行わせることができ、それらの活動から私立学校法人アーカイブズの特質の解明につながる材料が次第に蓄積されてきた。ここまでの途中経過に於いて判明したことは、すでに歴史資料となった明治・大正・昭和期の文書は伝存しなければならないと誰もが容易に判断できるが、現用の文書については、これらの保存期間を明確に示したうえで、移管手続きも明示し、廃棄か保存かの選別を行うシステムを確立し、実施していかなければ可能にならないということを実感することができた。現用文書の評価・選別のシステムは、学校法人にとって社会的説明責任（アカウントビリティ）と法令順守（コンプライアンス）のために不可欠なシステムであると考えられ、制度化と実施のための工程が喫緊の課題として求められよう。

（2）東アジアとアメリカ：「アーカイブズ学研究とアーキビスト教育の特質の解明」

アメリカ・テキサス大学デイビッド・グレイシー教授の講演などから、ヨーロッパに比してアーカイブズ制度の歴史の浅いアメリカに於いて、戦後、先人の努力によって徐々に制度形成が図られたもので、これに加えてグレイシー教授たちのさらなる努力の賜物であることを知ることができた。また広いアメリカの地域ごとのアーカイブズ学教育の在り方など、その差異にも注目する必要が学べた。アメリカの場合は地域差を抜きにした単一のアーカイブズ制度イメージは形成しにくいのに対し、アジアの国々は国家主導でア

ーカイブズの制度化を図った面が強い。

たとえば、ベトナムでは旧ソ連のアーカイブズやアーキビスト教育を受けその影響が顕著であるのが特徴的であると言えよう。国立ハノイ大学におけるアーカイブズ学教育についても学ぶことはできたが、こんご大学間交流などを通してカリキュラム研究などを行う必要性を見出した。また中国は、同じく共産党主導で独自の歩を進めているが、国家と中国共産党の影響力が強く反映されており、民主主義のためのアーカイブズ制度というよりは、国家権力による統治のために用いるアーカイブズ制度という色彩を否定できない。

これに対して韓国の場合、光州革命以後の金大中政権以来の民主化された大統領府主導で国家記録院が設立されアーカイブズ化が上から押し進められている状態にあると特徴をつかむことができよう。民主化のために多大な犠牲を払った韓国では、民主的なアーカイブズ制度の実現のために、たとえば、前大統領のアーカイブズ保全のために厳しい制度をアメリカ大統領文書管理システムを参考にして実施した。さらに国家記録院を始め各種のアーカイブズの担い手となるアーキビストの養成のための取組みも積極的であり、明知大学のアーキビスト養成課程との交流は今後も求められなくてはならないものと認識される。

以上のことから、アーカイブズ制度についてアジア地域を中心にした比較史的な考察を加えるとすれば、いずれの国も独自の歴史的過程の中で特徴的なアーカイブズ制度が形成されてきていることを明瞭に指摘することができる。つまり一つとして同一の制度は存在せず、それぞれが独特の個性を持っているということである。各国の特質の解明は今後もさらに継続して研究課題として取り組む必要がある。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計12件）

- ① 保阪裕興、アーカイブズ学へのいざない
1.大学院アーカイブズ学教育への挑戦、
専門図書館、査読無、243号、2010、31-34
- ② 高埜利彦、アーキビスト（文書館専門職）
養成制度の取組と今後の課題、日本歴史学協会年報、査読無、24号、2009、31-35

- ③ 高埜利彦、史料保存と歴史学、歴史評論、
査読無、204 巻、2008、38-43

[学会発表] (計 3 件)

- ① 高埜利彦、アーキビスト (文書館専門職)
養成制度の取組と今後の課題、日本学術会
議・日本歴史学協会、2008 年 6 月 21 日、
学習院大学

[図書] (計 6 件)

- ① 武内房司、明石書店、越境する近代東ア
ジアの民衆宗教～中国・台湾・香港・ベ
トナムそして日本、2010、384
② 安藤正人、岩田書院、アジアのアーカイ
ブズと日本—記録を守り記憶を伝える—、
2009、115
③ 高埜利彦、吉川弘文館、近世の宗教と社
会 1、2008、342

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高埜 利彦 (TAKANO TOSHIHIKO)
学習院大学・文学部・教授
研究者番号：90092254

(2) 研究分担者

武内 房司 (TAKEUCHI FUSAJI)
学習院大学・文学部・教授
研究者番号：30179618
安藤 正人 (ANDO MASAHIITO)

学習院大学・文学部・教授
研究者番号：90113422

保阪 裕興 (HOSAKA HIROOKI)
学習院大学・文学部・教授
研究者番号：30219159

(3) 連携研究者

研究者番号：